有楽町線延伸、東京都の負担は1043億円　総事業費の4割

#東京 #税・予算 #関東

2022/9/1 19:22 [有料会員限定]

有楽町線の延伸事業は総事業費2690億円

東京メトロ有楽町線を豊洲駅（東京・江東）から住吉駅（同）まで延伸させる事業で、東京都は事業主体の東京メトロに1043億円を補助金として交付する。総事業費約2690億円のうち都の負担割合はおよそ4割になる。都は2022年度以降、事業完了まで分割して交付する。

総事業費から車両費などを除いた補助対象事業費（約2341億円）のうち、東京都と地元の江東区が負担するのは48.6%にあたる約1137億円。このうち約94億円を江東区が分担し、1043億円が都の負担となる。

国は25.7%にあたる約602億円を補助し、東京メトロは残る25.7%の約602億円と、補助対象外の約349億円を負担する。

江東区は地下鉄誘致のために積み立てた建設基金を活用し、都は18年に積み立て始めた「鉄道新線建設等準備基金」を財源に充てる。東京メトロは鉄道・運輸機構から都市鉄道融資を借り入れるという。

有楽町線延伸は東京スカイツリーなどの観光拠点の集まる東京東部と開発の進む臨海部をつなぐ新線。開通すれば豊洲―住吉間の移動時間が現在の20分から9分へ短縮される。30年代半ばに開業する予定で、メトロによると豊洲―住吉間の利用者は1日30万人ほどを見込んでいる。

東京メトロは08年開業の副都心線以降、新線計画をしない方針だった。21年度の国の交通政策審議会の答申を受け、南北線延伸（品川―白金高輪）と合わせて22年3月に国土交通相から事業許可を受けている。

有楽町線の延伸事業は総事業費2690億円

東京メトロ有楽町線を豊洲駅（東京・江東）から住吉駅（同）まで延伸させる事業で、東京都は事業主体の東京メトロに1043億円を補助金として交付する。総事業費約2690億円のうち都の負担割合はおよそ4割になる。都は2022年度以降、事業完了まで分割して交付する。

総事業費から車両費などを除いた補助対象事業費（約2341億円）のうち、東京都と地元の江東区が負担するのは48.6%にあたる約1137億円。このうち約94億円を江東区が分担し、1043億円が都の負担となる。

国は25.7%にあたる約602億円を補助し、東京メトロは残る25.7%の約602億円と、補助対象外の約349億円を負担する。

江東区は地下鉄誘致のために積み立てた建設基金を活用し、都は18年に積み立て始めた「鉄道新線建設等準備基金」を財源に充てる。東京メトロは鉄道・運輸機構から都市鉄道融資を借り入れるという。

有楽町線延伸は東京スカイツリーなどの観光拠点の集まる東京東部と開発の進む臨海部をつなぐ新線。開通すれば豊洲―住吉間の移動時間が現在の20分から9分へ短縮される。30年代半ばに開業する予定で、メトロによると豊洲―住吉間の利用者は1日30万人ほどを見込んでいる。

東京メトロは08年開業の副都心線以降、新線計画をしない方針だった。21年度の国の交通政策審議会の答申を受け、南北線延伸（品川―白金高輪）と合わせて22年3月に国土交通相から事業許可を受けている。